

## 朱

## 塗り土器とは

朱塗り土器とは土器の表面や内側に赤色で彩色された土器です。ベンガラと呼ばれる土から取れる酸化鉄を用いますが、中には漆を混ぜて土器表面に塗り赤く色づけしたものもあります。土器以外にも石器や土偶や埴輪などの土製品・弓や櫛などに朱塗りされている出土品も見つかっています。朱塗りされた遺物の大半がベンガラのみで塗彩されていますがこれは、ベンガラが日本全土どこにでもあり、採取が容易であった事が考えられます。一方、うるしは採取場所も限られ、精製方法も複雑で量も取れないことから特別なもののみに塗彩されたと考えられます。

安堵屋敷遺跡からは深鉢・鉢・浅鉢・壺・注口・香炉など様々な器形に朱塗りされていますが、数はそれほど多くはありません。文様を朱で塗ったり、土器の装飾の一部を塗り、一層際立たせていたり縄文人の美に対するセンスや意識の高さがうかがえます。



朱の原料を入れていた壺形土器(展示中)